

しなののうた

校庭の雪降るなかを戯るる同級生の星またひとつ



杉田小百合

しなののうた

凍みる夜は熱爛がよし  
独り居に少し覗きぬ  
大寒の月

杉田小百合



しなののうた

乱舞する雪の妖精怪しかりわれを招きぬ銀色の精



杉田小百合

しなののうた

群雀一樹に寄りてねぐらとす  
その裸木の膨らめるごと

杉田小百合



しなののうた

新雪を踏み進める足跡は  
くの字のありて来し方に見ゆ



杉田小百合